

日中韓は兄弟の国であるとの信念は私にとっても同感です。

漢陽大学校名誉教授
キム ヨンウン
金 容雲

金容雲先生のこと

韓国のバートランド・ラッセルと呼ばれ、数学者である漢陽大学名誉教授の金容雲先生とソウルで後藤吉助翁とお会いしたのは、2016年5月31日のことであった。

金先生は元より、東京生まれの在日二世で、日韓両語のバイリンガルの持ち主である。実は、その素養が歴史解明を決定的なものにした。

それは、今までの歴史学者にない数学的論理の組み立てによる整合性、そして両国言語の歴史の変遷の源流に立ち返って推察出来る言語学の実証である。

これにより、日韓歴史文化は一挙に明らかになり飛躍した。

対談の中で、「日本が世界に誇る大数学者・岡潔先生を尊敬申し上げ、古都奈良の飛鳥にこよなく郷愁を抱くものです」との金先生のお言葉に共感し、1000年の知己に遭遇した感があつた。

その深い含蓄に富んだ洞察と示唆は、今後の日韓平和への足掛かりになるに違ひ、両国の師表となり、懸け橋となられるであろう。

まほろば主人 宮下周平

＊バートランド・ラッセル：(1872-1970) イギリスの哲学者、論理学者、数学者であり、社会批評家、政治活動家である。

宮下様

「倭詩」、楽しく読ませて戴きました。

又、御鄭重なる筆書のお手紙、感激の至りです。(私のような者にとってボールペンでしか手紙を書けないのが残念です)

特に文中の奈良の山の辺の道はなつかしく思い出されます。

特に三輪山付近の夕日が美しいのは印象的でした。宮下先生もそのあたりで私と同じ様に考えておられるかとも思っています。

日中韓は兄弟の国であるとの信念は私にとっても同様です。



左から社長、3人目が金容雲教授、右端が後藤吉助氏

陶磁器も日本、韓国のものがつながつている事に深い思いをしています。

有田の李参平「故郷忘れ難く候」の沈寿官など深い絆があるのは何よりです。

“上善を水”“すべては水である”の老子やターレスの言葉は私も常に味わっています。

後藤吉助氏は、元気でしょうか。

又ゆっくりお話の出来る日を楽しみにしています。

札幌での講演会にわざわざ参席戴いた友情を忘れません。

北海道も櫻の時期になったと思います。

美しい大自然、特に清らかな水が目に見えびます。

金容雲 拝上

PS. 續「倭詩」は前「倭詩」に比べ、又別の風格があり本当に懐かしき未来を感じました。

原型史観でみる 韓日文化の比較

－ 韓国のバートランド・ラッセルの文明批評 －

原始社会から現代に至るまで世界史の流れと思想を貫通し「民族史の初期段階に形成された民族の性格を原型」と定め、このような原型は民族共同体の未来と運命を決定する。言語と思想を始め、宗教観、歴史観、時間観、趣味生活に至るすべての文化的要素は各民族の深層に位置する原型を通過しながら、それぞれ違う形で発現される。

講師

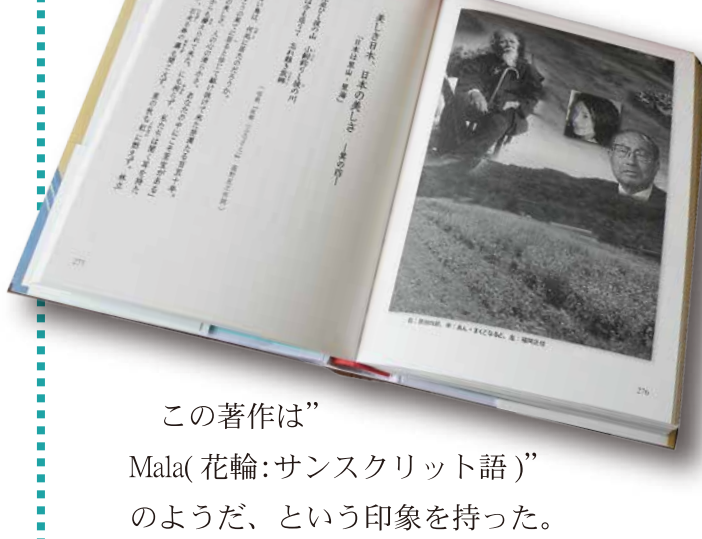
- 講師紹介：東京生まれ。数学が専門であるが、韓日の歴史・文化について造詣が深く、多数著書を発表している。現任、漢陽大学校名誉教授。
- 著書：韓国人と日本人—双対文化のアジズム(1983年 サイマル出版会)、突破口の三国史—21世紀を生きる 日本・中国・韓国(1999年 後藤書店)、日本語の正体(2009年 三五館)、日韓の文化対立は宿命である(2012年 三五館)、風水穴(2014年 Maksumedia)、その他に著書多数。
- 受賞：2008年 日本国際交流基金 交流基金賞、2009年 旭日重光章

キム ヨンウン 金 容雲



読者は、著者の驚きや、心熱くなるさまを共にし、「倭」文化の懐の深さを再発見するであろう。

自然療法師 アメリカ合衆国 ペンシルベニア州在住
新家 江里香



この著作は”Mala(花輪:サンスクリット語)”のようだ、という印象を持った。

各々のテーマに、著者の「倭」文化、歴史への優しいまなざしが注がれ、それぞれの「語られなかった歴史」や「隠された関係性」がとかれてゆく。

その歴史や文化が、いかに世界との繋がりの中でなっているのか、ひとつの小さな事や物のなかに、いかに壮大で普遍的な真理や人々の知恵、努力を見いだす事ができるのか—著者の理を解することの深さに魅せられる。

宋朝体で記された文字は、漢語調の美しく、リズムカルな文章と相俟って、読者をその世界に引き込んでゆく。

読者は、著者の驚きや、心熱くなるさまを共にし、「倭」文化の懐の深さを再発見するであろう。

そして、日本人が古来より大切にしてきたありようを、著者の生きる姿勢として本書の中に見るであろう。

「あらゆる物事には核があって結晶する」と述べる著者の視点は一貫し、本書でとりあげられる様々な分野の事象(「結晶」)は、ある「核」を以て著者によって経験され、繋がれ、「詩」として体をなしているのである。

そして、それらは一般的な文化論とは全く異なる視点で開示され、斬新である。

モノや情報に溢れ、拡散霧消するかにように自己を見失いがちな今日、著者とともにこの「核」を確かにし、あたため、未来へと渡していきたいものである。

まほろば主人
No.4485 17-068 5/12



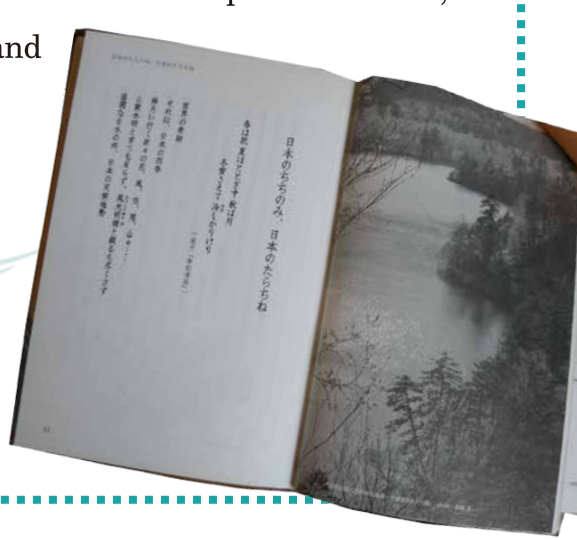
the reader of Chinese classics and it easily draws the readers into his world.

You will experience the passion and the surprise that the author experienced and you will rediscover the depth of Japanese culture. You will also see the author's sensitive attitude of care. Such care is a Japanese virtue greatly valued through its history.

In his book, the author says, “There is a core or a cause that generates the existence of all things and manifests phenomena.”

This idea is an important principle in his book. Many different phenomena, experienced by the author with this principle (the core) made his book like an essay, which is something like a garland. And his point of view is very unique, very different from the typical cultural analysis.

It is easy to feel lost in an affluent fast paced society, filled with information and an ever increasing dependence on the material and on technology. But with this book we can be sure of the core of Japanese culture, cultivate it and pass it on to future generations.



Book Review:
Erika Shinya
“Yamatouta Vol.2”
2016, IDP Press



This book is like a garland.

The untold stories and hidden relationships are revealed in each theme with love and respect to Japanese history and culture by the author.

The author is impressive in the way he articulates his depth of understanding of Japanese history and culture. This book enables us to understand how Japanese history and culture is embodied in relationships with other cultures of the world. Also this book helps us to see how artwork and products are created on the basis of universal principles based on centuries of collective human wisdom.

The Sung-style of typing is used in this book. This style is rarely seen among printing styles in Japan today. It works well with his rhythmical expressions reminding

中国と日本と韓国の人々のありように一筋の光明を見た思いがした。

amazon.co.jp
アマゾン

★★★★★

投稿者ピース 投稿日 2017/4/30

Amazon で購入

良寛和尚のうたを読まれた所から、独り身の自分の身の上との重なりを感じ、「群れない、慣れない、頼らない」は私のこれからの一人生きる支えとなるやもしれんと、思い、徐福

の話を講演された著者の話を読み、著者の幼い頃の韓国の方のご縁を聞くと、本来日中韓は兄弟なのだ、と、これからの中国と日本と韓国の人々のありように一筋の光明を見た思いがした。

読者の我々にとっても生きる希望となります。

amazon.co.jp
アマゾン

★★★★★

投稿者ピース 投稿日 2017/4/30

Amazon で購入

是非おすすめです。

amazon.co.jp
アマゾン

★★★★★

投稿者カスタマー 投稿日 2017/2/19

Amazon で購入

尺八の六段は讃美歌だった話しは驚きでした。鼎談も良かったです。

おすすめの一冊です。